

長谷部 杉田 考 X 論

参院選—「改憲勢力 3 分の 2」の意味を問うと題した連続対談。朝日新聞 7 月 18 日朝刊による。

長谷部恭男・早稲田大教授 参院選の結果は野党が 1 人区で 11 勝し、かなり善戦したと言えます。共闘していなければ、とてもここまで持ちこたえられなかったでしょう。



杉田敦・法政大教授 いま一部メディアが、野党共闘は破綻したときかんに言っていますが、成功したから潰したいという意図が透けて見えます。一方、自民党は大勝し、改憲に前向きな「改憲勢力」の議席が 3 分の 2 に達した。安倍晋三首相は次の国会から憲法審査会を動かし、議論を進めたいと言っています。

長谷部 3 分の 2 という数字にどれほどの意味があるのか、よくわかりません。街中で 100 人の人にアンケートしたら、3 分の 2 の人が「山に登りたい」と言っていたというのと、どこが違うのでしょうか。

杉田 安倍さんやその周辺は終始、憲法は参院選の主要な争点ではないと言ってきました。それに対して一部の野党は、安保法制などの経験からして、選挙後に安倍首相は豹変し、憲法についても信任を得たと言うに違いない、だから憲法が争点なのだと訴えた。

長谷部 そして予想通り、豹変した。

杉田 安倍さんは選挙後の記者会見で「いかにわが党の案をベースに 3 分の 2 を構築していくか。これがまさに政治の技術だ」と明言しました。国民に正面から憲法改正を問いかけることなく、手続きだけ進めてしまおうということでしょう。しかもそれが「政治の技術」と言うのだから、厳しく批判されるべきです。

長谷部 安倍さんにとって、民意というのは尊重すべきものではなく、操作の対象なのでしょう。

長谷部 過激な民主主義が世界的に広がっています。憲法の抑制と均衡というブレーキは外して、政党という壁も取り払って、とにかく民意で突き進めと。

杉田 国民主権だ、勝手に決めるなという意識は大事です。ただ、一方でそれは「最後に決めるのは国民の皆さんです」と言いながら行われる人民投票と実は相性がよくて、独裁政治を引き寄せてしまう危うい側面もある。やはり民主主義だけではだめで、権力の暴走を抑えるという立憲主義をもう一度想起しないといけません。

(2016 年 7 月 22 日)